

捕まえたムネアカハラビロカマキリを手にする阿部さん。生き物について「より多くの人と協力して研究したい」と話す



福島市の蓬萊中3年の阿部正紀さん(15)が今秋、市内で外来種のムネアカハラビロカマキリを捕まえた。本来はいるはずの外来種がいたことに驚くと同時に、生物を巡る環境の変化に危機感を覚えている。

「まさかいるとは思わなかった」。阿部さんはムネアカハラビロカマキリを発見した時の様子を振り返る。それは何げない日常の中での出来事だった。

9月下旬の午後8時ごろ、自宅に帰るため、福島市の住宅街にある街灯の近くを通った。「カマキリの習性として光がある所に集まってくる」。昆虫に関心があり、興味本位で注意して見たところ、予想もしていなかった外来種と遭遇した。実際に外来種を目にしたことに「福島にいるんだ」と驚く。

## 阿部さん(蓬萊中)外来カマキリ捕獲 環境変化に危機感

「協力し調べたい」

捕り網を手には昆虫を追いかけるほどの昆虫好き。家族と共に県内外で昆虫採集をするうちに、在来種の減少や外来種の増加、昆虫の生息域の変化も調べるようになった。

ムネアカハラビロカマキリは中国大陸が原産で日本国内に持ち込まれた後、生息域を広げ、過去には県内でも確認された。阿部さんはほかにも、外来種のサビイロクワカミキリやアカボシゴマダラなどを見かけたことがあった。外来種は駆除の対象になるが「人間が連れてきたもので、昆虫に罪はない」といい「まだまだ分からないことが多い。(在来種への影響も含め)いろいろ調べていきたい」と話す。

国内で一部の外来種が分布域を広げる背景には、地球温暖化の影響を指摘する声もある。昆虫をきっかけに、温暖化などの環境問題にも興味を持った阿部さん。「生き物について調べるとは、環境問題をはじめとした持続可能な開発目標(SDGs)を考えることにもつながる。これからは交流サイト(SNS)などを使い、より多くの人と協力して研究したい。生物の世界と同時に、環境問題も考えていく。

▲12月10日 福島民友新聞掲載

なぜ阿部さんはムネアカハラビロカマキリを見つけたとき驚いたのですか。

阿部さんは外来種に対してどのような考えを持っていますか。

なぜ阿部さんは、生き物について調べることはSDGsを考えることにつながると考えたのでしょうか。